

美羽

とぶ

NO. 11

5 X, 1980

百万石蝶談会

HYAKUMANGOKU-TYÖDANKAI

イワオウギを食すハクサンシジミ

松井 正人

アサマシジミの白山地方種、いわゆるハクサンシジミの食草については、ミヤマタニワタシ、ナンテンギ^{*1}が報告されている。最近さらにイワオウギを食しているハクサンシジミの幼虫を石川郡尾口村中ノ川において確認したので報告する。

1980-VI-15 石川郡尾口村中ノ川・標高約800m 60CS
(川の半分は雪に埋っている)

幼虫の確認地は、ほぼ垂直な岩のすき間に生えた1株だけのイワオウギより4令幼虫1ex. 約45度のがい錐斜面で他の草の混生しているイワオウギ多数株のうち4株より、2令1ex. 3令1ex. 4令3ex. 3令1ex. 合計6ex.の本種幼虫を確認した。

この時、イワオウギの半数は花が咲いていた。また、ここよりやや下流でナンテンギ数株を確認したが、ハクサンシジミを見い出すことはできなかった。

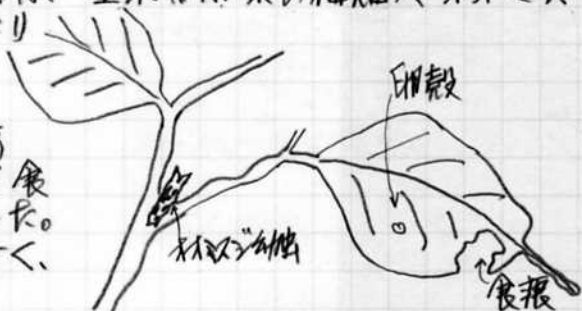
*1. とくりばち8号 武藤 明 岩崎木系
*2. とくりばち41号 松井 正人 尾添川

金沢市川原でオオミスジ幼虫を確認

諸道 秀人

8月19日、松井正人氏と筆者は、金沢市川原の梅畑へオオミスジ幼虫調査に行き、松井氏により一頭の本種幼虫を得ることができたので、報告しておく。

この幼虫はすでに越冬態であった。食痕は、コマミスジに近く、梅の枝分岐や太枝周辺をさがした。食痕は少く、幼虫はもっと少く、



おそらく太幹にいるものと思われるが、もう1ヶ月早く調査すればよかったように思われる。

ともかくこれで、石川県産 *Neptis* 属の幼虫と食草・食樹が判明したことになる。

大山の蝶

松田 俊郎

鳥取県の大山は、古くから知られた好採集地である。私は関西に住んでいた関係で何度か、この大山に採集に行った。

大山有料道路は、ミズナラのトンネル道となっているが、この有料道路の両側をジョウザンミドリの大群が乱舞していた。

緑がキラキラと輝いて、実にすばらしかった。最初は必死になってネットに入れたが、余りの数の多さにあきれてしまい、後はもうながめていただけだった。

横手橋では、アイノミドリ(♂)を採ったが、この時は、まさに林の中から蝶がわいてくるという感じだった。しかしアイノを採集できたのはやはり早朝だけで、10時を過ぎると全たく、飛ばなくなってしまった。

フジミドリ(♂)を採ったのも、早朝だった。すでにボロであったが、フジミドリを採ったのは初めてで、とてもうれしかった。

大山でこれまでに私が採集した蝶の種類とデータは、次の通りである。

ジョウザンミドリシジミ	1978-VII-2
エゾミドリシジミ	1978-VII-1
アイノミドリシジミ	1978-VII-2
フジミドリシジミ	1979-VII-9
ダイセンシジミ	1979-VII-9
ウラケンシジミ	1979-VII-9
ウラクロシジミ	1979-VI-26
ヒメシジミ	1979-VII-9

1980年度・陸王山の *Chrysozephyrus* 2種

吉村 久貴

当然、アイノミドリとメスマカミドリであるが、6月28日、7月1日の早朝、昨年と同じポイントにて、アイノミドリシジミの乱舞を確認。空の晴れ上がった快晴でないと思われぬ光景。

7月1日には、昨年採集できなかったメスアカミドリシジミ1♂を、1978年と同じポイントで採集。嶋井氏も後日、1♂を確認した様子。なお、今年は雪のせい、クリの花の開花時期が、やや遅かったが、クリソには何ら、影響がなかったようだ。

(データ)

金沢市匠王山麓松崎	1980-VI-28	アイミドリシジミ	10♂
"	1980-VII-1	アイミドリシジミ	9♂
"	1980-VII-1	メスアカミドリシジミ	1♂

富山県産ヒメシジミ食草あれこれ

松井 正人

1980年、富山県の3ヶ所で、ヒメシジミの幼虫を見つけ、数種類の自然食草を知り得たので報告する。

- 1) 早月川支流・白萩川 6月1日確認
イワオウギ・ヨモギsp.・フキ
- 2) 常願寺川支流・湯川 6月7日確認
ヨモギsp.・ハギsp.・オノエヤナギ
- 3) 常願寺川支流・真川 6月8日確認
ヨモギsp.・ハハコグサsp.・アザミsp.・フキ
イタドリsp.

蛇足ながら、ヒメシジミの飼育に際してキャバツを与えたところよく食べていた。

最近の行動より

緒道 秀人

7月29・30日、野中氏と白山へ登った。途中、バイトナイトトラップ90個を観光新道にしかけながら室堂まで行く。途中、殿ヶ池ヒユツテより黒ボコ岩に至る途中で、バニヒカゲを1頭目撃した。

30日は残念ながら天候悪く、蝶はとばなかった。野中氏は、ハクサンクロナガオサムシを1頭得た。

他ホアサギマダラ1♂を採集した。

シロオビアゲハの追補

諸道 秀人

鹿児島より送られて来たシロオビアゲハの飼育羽化した成虫を、松井氏が人工交配し、強制採卵した結果、多くの卵を得た。一般的にはミカン類が主要食樹となっているが、この強制採卵で得た本種をキハダで飼育を試みたところ長好に育ち、現在も飼育継続中である。

この他、サンショウ(少しかじった)・ユクサギ(少しかじった)・カラスザンショウ(全然無視)もあたえてみた。シロオビアゲハがキハダを食するのは新発見であろう。

我家の食草園について

嶋根 正人

か根が根、松井正人氏より筆者宅に栽培している食草類をリストアップしたらとの進言があったので、はなはだ心苦しいが、あえて公表することとする。なお種名の横に*印を付したものは県外産である。

ヒカンアオイ(窪・医王山・森本荒山)	クロヒカンアオイ*	
ミヤマアオイ*	セノビカンアオイ(? 松井氏提供)	
ナタデラカンアオイ(? 松井氏提供)	ウスバサイシン*	
イワハタザオ*	ミヤマハタザオ*	エマツナギ*
エビラフジ*	イワオウギ*	カサスゲ*
カシワ(志保町)	コナラ(森本四郎植木)	ブナ(白糸街道・室堂山)
ミズナラ(医王山)	キハダ(白糸街道)	ユクサギ(鶴畑町坂築)
マンサクsp(国見山)	マルバアオダモ(新井町高草)	トネリコsp(国見山)
エノキ(金沢源次郎)	イボタsp(四ッ町)	ミヤマイボタ*
クロウメモドキ*	デコトネリコ*	

この様にリストアップすると大変目ぼえがし立派な庭(?)に見えるが、ところどころにナス・イチゴ・カブ・ナツメ・キウリ・トマト・サツマイモと自給自足(昨冬あたり野菜高値のため防犯策をとった)の種も混在している。

なお、ちゃんと鹿児島島の福田晴夫・神園香の両氏や富山の犬野豊氏の豪庭に匹敵する庭にしてみたいと思っているので御勘力の程。

◀編集人へ▶ 翔もはやNo.18の発行の運びとなった。編集構成にも案があったら御教示下さい。56年度発行の分は採用致します。

1980年7月12日～7月15日にかけて、白馬村、松本市近郊、伊那市近郊、戸隠高原方面に採集に出かけたので、その記録を残しておきたい。

<1980.7.12>

朝9時に金沢を出発。松本に帰省する薬学部S嬢が同行。富山で渋滞にひっかかる。午後2時過ぎ、白馬村切久保に到着。ヒメシジミに混って、やや大きめのアサマシジミが見られる。思ったより、発生が遅かったのか、新鮮な個体もいる。ホンミスジが何頭も見られ、トラノオの花に無数のヒョウモンチョウが見られるが大部分がミドリヒョウモン。

データ 白馬村切久保

アサマシジミ 5♂♂ 2♀♀

ホンミスジ 3♂♂

ミドリヒョウモン 2♀♀

ツラゴマダラシジミ 1♀

Xスグロヒョウモン 2♂♂

コヒョウモンモドキ 3♂♂

<1980.7.13>

信州大医学部のM氏のセリカ2000GTIC、東京から帰省途中に寄ったT氏と乗り込み三城牧場に向かう。バスの終点よりやや奥のロッジ前に車を止める。美ヶ原から降りてくる自由り下の広小場までの小道沿いで、ミスジチョウ・フダスジ・コヒョウモン・モドキがかなり見られた。広小場には屋根のついた休憩場のある草原。ヘビノボラズの木も何本も見られた。しばらくベンチで休んでいると、白い蝶が風に吹かれた紙のように飛んできたが、今にも落ちそうなお感じ。しかレ白い翅に黒いスジがくっきりと見えた。ミヤマシロチョウだ!! ヘビノボラズの木は、バス停から牧場のまわりにはどこにでもはえている。帰り際、バス停の前で吸水中のミヤマシロチョウを見たが、人目をばかすうちに見えなくなった。数は少ないが広く分布している感じ。もう少し遅い時期だともっと個体数が見られると思われる。

やや市街にもどった、舗装路上では、無数のテングチョウ・コムラサキ・ヤマキチョウが見られた。藤温泉の方にも足を伸ばしたが、クジャクチョウが数頭得られただけだった。

データ

松本三城牧場

ミヤマシロチョウ 2♂♂

コヒョウモンモドキ 1♂

扉温泉

ミスジチョウ	2exB	テンガチョウ	1exB
7ダズチョウ	7exB	ゴヒョウメン	3exB
ヤマキチョウ	8B51♀	コムラサキ	3B5
クシクチョウ	3exB		

<1980.7.14>

早朝、松本を発って昨日と同様のメンバーで長谷村の小黒川に向かう。やや曇りのせいか取水のミヤマシロチョウは見られず、樹上を舞う無数のオオムラサキに遭遇。M氏が石を投げて急降下してくるオオムラサキを数頭採集。昼食後、南沢温泉に向かう。権兵衛街道は不通。シートン・オオミスジなどが得られた。

シートン

長谷村小黒川	オオムラサキ	5B5	ルリタテハ	1♂
--------	--------	-----	-------	----

伊那市横山
南沢温泉

サカハチチョウ	4exB	テンガチョウ	3exB
シートン	2exB	コムラサキ	4B5
オオミスジ	2exB	ヤマキチョウ	2B5
メスグロヒョウメン	1♀	ミドリヒョウメン	1♀
ウラギンシジメ	1ex	ツバキシジメ	1♂

<1980.7.15>

早朝、松本を発ってT氏とマークIIで戸隠高原に向かう。地図をたよりに大橋に到着。川原のクサフジを確認。レカレトガクシシジメは見られずヒメシジメのみ。鬼無里村でもクサフジを確認したがアサマシジメは見当たらなかった。帰途白馬村に着いたが、7月12日と同じようなパターン。

シートン

戸隠高原	ヒメシジメ	4B54♀	ゴヒョウメン	2ex
	ミドリヒョウメン	1♀	シートン	1ex
鬼無里村	ヤマキチョウ	1♂		

白馬村比叡保

アサマシジメ	9B58♀	ホシミスジ	1ex
ヒメシジメ	2B5	7ダズチョウ	1ex
メスグロヒョウメン	2B5	ミドリヒョウメン	1♀
ウラギンシジメ	1ex	シートン	1ex
ゴヒョウメン	5exB		

「カトカラ経い」

野中 勝

カトカラと呼ばれる一群の蛾の存在は以前から知っていた。多分山と深谷社の「山の昆虫たち」でカトカラをゼフィルスと比較して記述した一文を読んでだったと思う。ゼフが好きだった僕は当然興味を持ったが、実物に接する機会がないまま10年以上が過ぎていた。それが昨年の月刊むしのカトカラ特集号を見て、急に採集してみたくなり、秋の一夜、懐中電燈片手に医王山を訪れた。スポーツセンター付近の雑木林に入り、コナラの幹を懐電で捜し、それとおぼしき大型の蛾を発見しネットを出した。意気にもその大型の蛾は素早く飛び立ち、僕のさし出したネットと懐電の光をかいくぐって闇の中へ消えていった。鮮やかな後翅の紅色のみが僕の頭の中にプリントされ、いつまでも消えなかった。これがオニベニシタバとの出会いだった。カトカラに対する欲求不満をかかえたまま昨シーズンを終えた僕は今シーズンこそはと、似た様にカトカラ目的の夜間出撃をくり返した。以下にその記録を記す。8月2日の犀川ダムの付近で、他は全て夜間の灯火と雑木林の見回りで採集した。医王山とは医王の里及び医王山スポーツセンターの周辺である。

1980.VII.20	医王山	イノシタバ" 1ex
VIII. 2	犀川ダム	シロシタバ" 2exs
VIII. 5	医王山	シロシタバ" 2exs オニベニタバ" 2exs キタバ" 4exs. シナスキタバ" 1ex.
VIII. 7	医王山	ムサシタバ" 1ex. 'シタバ" 2exs. イノシタバ" 1ex. イマシキタバ" 1ex コシタバ" 1ex.
VIII. 8	市ノ瀬	シロシタバ" 1ex オニベニタバ" 1ex. バニタバ" 1ex キタバ" 5ex ヨシキタバ" 2exs イマシキタバ" 6exs
VIII. 10	医王山	オニベニタバ" 3exs イマシキタバ" 1ex コシタバ" 1ex
VIII. 12	医王山	オニベニタバ" 1ex シナスキタバ" 1ex マキタバ" 1ex
VIII. 19	医王山	マキタバ" 1ex
VIII. 24	医王山	オニベニタバ" 2exs.

かくして今僕は、展翅した14種26頭のカトカラを標本箱に並べ、

毎日ながめては一人ぼくそえんでいる。今後、我家を訪れる虫屋は否応なしにこの標本箱を見せられるはずだ。

そして一言でもほめないと、お茶も出してもらえないことになるだろう。

誘引燈

ヨコシマミダラスズメ

8月より、金沢市内渥々田十方間の道路にて夜間燈火に来る虫の写真を撮影しているが、わりにいろいろ好虫が稲束しているので非常に面白い。ポイントは、道路の街燈であるが、交差点にあるひときわ明るい電球である。道路上や立てカンバン等に多いが、前者の場合、車に注意（よくひかれて死んでいる虫が目につく）が必要で、カンバンの場合、レンズの明るさに難点がある。

また、懐虫電燈などで照らすと上記の問題は解消できるが、急に動き出してよくないようである。

〈8月5日の得物〉

シモフリスズメ モモスズメ* クルマスズメ フドウスズメ エリスズメ*
セスジスズメ コスズメ ヲチバスズメ* ウモンスズメ* ホバスズメ*
ヤマユガ ツガレハ ヲチカレハ キヤバの一種

その他の昆虫類

ミヤマクワガタ♀ コギクワガタ♀ カクトムシ イバロカミキリ(カミキリ)
コガネムシの仲間 アガラゼミ ニニイゼミ クムムシ 他いろいろの虫

*即、スズメが特にウモンスズメ類が非常に多い

ヨコシマミダラスズメ

ノグソリスト横行す

ヨコシマミダラセセリ

俗に言うキジウチマンのことであるが、最近特にノグソリストが横行しだした。それは最近の採集行が、これまでとちょっと変わった為である。これまでだと、明日は何処へ行くから朝5時出発などと言っていたが、朝5時は早いから今から行こうと言うのが最近である。つまり現地泊、起床、規則正しい人はノグソリストとなる訳である。

前日、現地着というのは、ながなが長いものである。

1. 夜は車が速い(捕まらぬ)
2. 出発時のせわしさが無い

3. 夜楽しく御酒が飲める(二日酔に十分注意*)
4. 朝寝ができる。

この結果、ノグソリストが増え、ウンゲルンが立ち並ぶのである。ウンゲルンは必ず作るべきであり、万でウンをつぶす時のあの感じは、なかなかの見過ごえがあり、一度はやるべきである。オー後続者の目印になって貰いのである。

* 過去2人の二日酔者があり、1人はフラフラして川にはまり、1人はハキケで採集地へ行かず寝ていたところ、工事現場のこわいおじさんにおこられた。

ヨコヤマミダラセセリ

《例会の記録》

◆ 1980.11.14(金) PM7:00~9:00. 市内小立野・崎浦公民館にて本年11月例会を開催。出席者は、野中・井村・竹谷・若下・松井・諸道・嶋田・井のワ氏。八木橋氏(青森へ新取試験)も村氏(アルバイト)高田氏(井中)、金平氏(DI?CO)は欠席した。

話題は、まさにゼオライトの豊作中であつたことが確認されていること。今年が豊作らしい。採集情報として諸道氏の"THE EGGS"なる週刊紙が作成されていること。

二俣の医王山神社付近のウラジロカシバ。粗アヤ採集はどのような構成にするか。

保護。ヒサマツはどこに目を付けるか? etc.

《会員の動き・ヤバの動き》

◆ 冷夏のせい、会員諸兄は、9月半ばからの採集を開始している。目下、土・日は川回転登山へ採集へ、採集へ。

◆ 10月26日(日) 野中・諸道・松田は白山採集道へ。目的はフジシドリだったが、たつたの0000。不作らしい。おまけに降雪におい、普通タイヤで命カラがら帰ったとか?

◆ 10月19日(日) 若下嬢は、金沢市観光会館にて、日頃励んでおられる日舞を発表された。存心は操縦流の名取であるとか。最近クワンサリ、白(緑の車)車(走)

まわっているというウツサがあり。

◆ 諸ムシは、松井国士開発K.K.のPILバートル、相当の金額貯めている。ふところが重いので、北鉄自動車学校へ寄付しているとかウツサされている。年内に免許証が取りそう。

◆ 井村・野中がヒサマツは、11月13日、福島県へカシバの調査。帰りにある地で、ヒサマツ0000卵せめて来。

◆ 諸道氏、新取市の某国士開発K.K.(社名をいえないのであて某社)へ京鹿が決定した。来春以降は、ヒサマツ・4ヨウカ・ウラジロ・ハヤシ等は、取説採つて、とりまると話している。

◆ 松井・松田・諸道の3人を最近、木登り3人組と呼ぶそ一存。

◆ 昨年に比べ、今年は医王山・倉ヶ岳・獅子吼高嶺等どこへ行ってもゼオの卵は多いそうらしい。存心で、松井氏が"目星をつけて登る木はフジシドリがバタバタとか。ゼオの好きな人は今のうちぞぞ"。しかし、石の真昼間でも蒸留があるので、医王山は特に注意すべし。

◆ 今年も、猪後のヒサマツは、多いそ一です。一昨年、昨年に続く豊作とか

情報が少なくて。

◆野中稔普木智は、11月9日(日)、医王山にて、またまたメスアカシジミの卵を採った。詳細は、翔20号に掲載予定。乞、御期待。

◆同じく、野中氏、去年にニリす、ウラキンの卵を採りおさっている由。しかしこの人のウラキン採卵には頭が下りすぎ。

◆以前にもウラキを聞いたがミスナラもいろいろの種類(?)があってアポシストラクリソミスナラ(?)があるらしい。

松井木登人の登るミスナラはアイルかついていないらしいし、諸道木登人の登るミスナラは、ゾウザンが多いらしい。

◆松井・松田・野中・諸道に続き、おれ俺も最近木登りを始めたものがある。若い(?)時に登れた木登りのイメージ思い出したっつ.....。それでもこの頃、相対2〜3卵のアイノシジミが採れるように感じている。しかし、梅嶺解禁でもあり態にまちがわれないう。

◆吉村場利人は、11月23日(日)、入道馬方面をあきりめて、バコレ、松田・モウシヒ医王山へ。傷心者へのXグミがあり、ヤマザクラsp(重山道)より2卵のメスアカシジミを得た。 ←嶮嶮井記→

(おわわ)編集人の都合により、18号・19号の発行が逆になった。深謝致します。

目次

イロオウギを食すハクサンシジミ	松井正人	1
金沢市小原でオオミスジ幼虫を確認	諸道秀人	1
大山の蝶	松田俊郎	2
1980年度・医王山のChrysozephyrus 2種	吉村久貴	2
富山県産ヒメシジミ食草あれこれ	松井正人	3
最近の行動より	諸道秀人	3
シロオビアゲハの追捕	諸道秀人	4
我家の食草園について	嶮嶮井海部	4
長野県遠征記	吉村久貴	5
「カトカラむい」	野中 勝	7
誘引燈	ヨシマミダラズメ	8
ノグソシスト横行す	ヨシマミダラセリ	8
例会の記録	嶮嶮井記	9
会員の動き・しゃげの動き	嶮嶮井記	9

翔 № 18

1980年 10月 5日(日)

発行：金沢市三口新町4-9-34、松井正人方
百万石蝶談会
編集校正：嶮嶮井海部